

ルノデ其ノ點ハ同孃ニ對シテ甚ダ御氣ノ毒ニ感ジテ居ル次第デアル、夏祭リノ夜ニ箱入娘ノ正體ヲ見タツモリ  
 ノ淡イ誇リノ心ヲ貴イ誌面ヲ藉リテ正直ニ書イタマデ私ノ僻目デナカッタラ幸デス  
 因ニ記ス中井博士最近ノ研究ニヨレバ我が國デ見ラレルほぼづきノ學名ハ *Physalis Franchetii* MASTER. デア  
 ッテ今迄ソノ學名トシテ知ラレテ居タ *Physalis Alkekengi* LINNAEUS. ハ實ハ歐洲ノ原産デ莖ハ稍々蔓性ニ傾  
 キ葉ハ小サク光澤強ク果實ハほぼづきニ比シテ倍以上モ小サイソウデアル、故ニ嚴密ナ解釋デハ「箱入娘」ヲ  
 直チニ日本ノほぼづきトスルハ穩當デナイカモシレヌガ、ソコハ何分鷹揚ニ見テ戴キ度イト云爾

## ○輕業ヲスル植物

緒 方 正 資

輕業ハ人間ノ曲藝トノミ思フベカラズ植物ニモ輕業ヲスルモノガアル即チ其名ヲかるわざねぎマタ（やぐらね  
 ぎ、さんがいねぎ、たらねぎ）ト云フ、古クヨリ知ラレタモノデ『草木圖說』ヤ『本草圖譜』ナドニ立派ナ圖  
 モアリ夫レカラ轉ジテフランシエ、サヴハチエ兩氏ノ『日本植物志』ニモ其名ガ傳ヘラレ最近マタ HANS MO-  
 LISCH ニヨリ日本植物生理學デ世ニ紹介サレテ居ル學名ハ *Allium fistulosum* L. var. *viviparum* MAKINO. デ  
*viviparum* ハ「種子ノ代リニ幼植物ヲ胎生スル」ト云フ意デアルガ此ねぎハ其學名ノ通りマタ此處ニ掲ゲタ寫  
 眞ノ如ク葉ノ頂部ニ數個ノ幼植物ヲ簇生シ其ノ尖端ニ花ヲ着ケテ輕業ねぎノ名ヲ辱シメナイ、コノ葱ニ就テハ  
 蘭山小野識博大人ハ『本草綱目啓蒙』卷ノ二十二葱ノ條下ニ「樓葱ハヲランダネギ一名ヤグラネギ、マンネン  
 ネギ、サンガイネギ、奥州南部ニ多シ何レノ地ニ移シ栽ルモ繁茂シ易シ葉ハネギヨリ肥大ナリ當中ノ葉梢ニ短  
 小葉多ク聚リ生ジ又葉上ニモ短葉生ジ三重ニモ七重ニモナル其短葉ノ本ニ根アリテ鬚ヲ生ズ地ニ移シテ生ジ易  
 シ又根旁ニモ嫩苗ヲ多ク生ジ分栽スベシ一名樓子葱 救荒本草 蟠葱 本經 臺葱 物類相 感志」ト記シテ居ル蘭山先生ノ記述ハ



(緒方栽培、菅野撮影)

かるわざれぎ (一名) やぐられぎ、さんがいれぎ、  
たられぎ

(*Allium fistulosum* L. var. *viviparum* MAKINO.)

詳細デ甚ダ要領ヲ得テ居ルノデ今更此上蛇足ヲ添ヘル要ヲ認メナイカラ説明ハ「啓蒙」ニ讓ツテオク、蜀山人ハ此ねぎガ頗ル氣ニ入ッタト見エ其著『一話一言』中ニ其記事ガアル  
其原產地ハ葱ト共ニ詳デナイガ牧野先生ハ現在ノ產地ヲ支那及ビ日本トサレテ居ル（『草木圖說』）尙コノねぎハ普通種ニ比シ更ニ佳味デアル

因ニ云フ葱ノ原產地ハ的確ニハ知ラレテ居ナイガ De CANDOLLE ノ著 L'origine des Plantes Cultivées ノ Ciboie commune ノ題下ニ「此ノ植物ノ原產地ニ就テハ知ラレテ居ナイガ露西亞ノ植物學者達ハアルタイ山附近バイカル湖附近ニ野生ガアルト言ツテ居ル歐洲ノ古代人ハコノ植物ヲ知ラナカッタガ中世紀或ハ其少シク後ニ露西亞ヲ經テ歐洲ニ傳ハッタモノデ十六世紀ノ記者 DODOENS ハ其著 Pemptades ノ六百八十七頁ニ甚ダ了解シ難イ圖ヲ殘シ之ニ *Cepa oblonga* ト云フ名稱ヲ與ヘテ居ル」ト云フ意味ノコトヲ述ベテ居ル、其處デコノ *Cepa* ハ一七二七年ニリンネガ設置シタ *Allium* ニ收メラレテ今ハ用キラレナイガ玉葱ノ種名 (*A. Cepa* L.) トシテ殘サレテ居ル (*Cepa* 屬ハ G. R. BOEHMER ガ一七六〇年ニ發表シタモノダト T. V. POST ET O. KUNTZE ハ言ツテ居ル)

マタ序ニ記シテ置クガ玉葱ニモ var. *viviparum* METZ. ヲミフ變種ガアル L. H. BAILEY ハ A Manual of Cultivated Plants ノ玉葱ノ條下ニ var. *viviparum* METZ. (var. *bulbelliferum* BAILEY). Top Onion. Underground bulb small and undeveloped; bulbels borne in fl. cluster (which is often proliferous) and used for propagation. ト書イテ居ルノヲ見ルト玉葱 (Onion) ニモかるわねぎ的ノ現象ヲ呈スルモノガアルト見エル、マタにんにくノ學名トシテ *Allium Scorodoprasum* L. var. *viviparum* REEGL. ト云フガアルニ見ルト此屬程輕業性否幼植物ヲ胎生スル意ノ名ヲ有スル屬ハマタトハアルマイト思ハレル野邊ノ雜草のびるナドモ同様ノ性質ヲ有シテ居ルモノト謂ツテヨカロウ

信州小諸方面ニ繁殖セル謂ユル晚霞芹

【牧野云フ、平賀源内ノ『物類品鑑』ニ「樓葱一名龍爪葱和名マンネンギ又サンカイネギトモ云救荒本草曰……ト此物業ノ末ニ根ヲ生ジ又葉ヲ出スコト霸王樹ノ枝ヲ出スガゴトシ甚異品ナリ東都希ニアリ其由テ出ル所未詳壬午主品中予具之一ト出デ又蜀山人太田南畝ノ『一話一言』ニハ「予去年玉川のほとり橘樹村百草村の一農家にて此樓葱を見たり土人に名を問へばカルワザ葱といふと答へしもおかしかりき」としはからずも此名を正す事を得たり讀書の益今にはじめず」ト出テ居ル】

## ○信州小諸方面ニ繁殖セル謂ユル晚霞芹

高 橋 貞 吉

信州小諸地方ニテハ晚霞芹トシテ人ニ能ク知ラレテ居ル水中ノ植物ガアル植物圖鑑ニアルおらんだがらしノコトニテ内外植物誌ニハおらんだみづたがらし、矢田部博士ノ日本植物編デハみづがらしノ名デ書カレテアル *Nasturtium officinale* R. Br. デアルおらんだがらし(本誌三ノ三口繪參照)ハ十字科ノ最モ普通ナル植物ニテ歐羅巴原産ノ多年生草本デアル溝瀆濕地淺水ニ生ジ莖高サ一二尺ニ達シ稍傾臥シテ下部ノ節ニ根ヲ生ズ葉ハ平滑奇數羽狀複葉ニテ小葉ハ卵形橢圓形或ハ長橢圓形ニテ縁邊波樣ヲナス春夏ノ候梢上ニ短キ總狀花序ヲナシテ白色四瓣ノ花ヲ開キ花中ニ四強雄蕊ヲ有シ花後稍短大ナル線形ノ長角ヲ生ズ

コノ植物ハ元來明治ノ初年ニ外國ヨリ我邦ニ渡來セシモノデアル、比類ナキ繁殖旺盛ナ草デアル上ニ之レヲ使フ西洋料理屋ガ方々ニ出來シ其處デ捨テタ莖ノ一部カラ芽ヲ出シテ繁殖シ間モナク我邦諸州ニヒロマリ遂ニ現時デハ思ヒモ付カヌ山中深クマデモ繁茂シテ居リ時々意外ナ處デ之レニ出會ヒ驚クコトガアル、此草ハ僅カ莖ノ一片サヘアレバソレガ水中デ早速ニ芽ヲ吹キ根ヲ出シ繁殖ノ基ヲナスモノデアル從テ各地ニ擴ガルニハ誠ニ世話ノナイ植物デアル

余ハ最近偶然丸山晚霞氏ノ書室ヲ訪フテ談偶マコノ事ニ及ブト晚霞氏ノ談ニ千九百二年(明治三十六年)晚霞氏亞米利加合衆國游學ノ際ワシントンノ郊外アナカストニアニテ校長メツサー氏ノ邸内ノ清水ニ澤山繁茂セルコ